

令和 7 年度第 3 回萩警察署協議会会議録

開催日時		令和 8 年 2 月 1 3 日（金） 午後 3 時 3 0 分から午後 5 時 1 5 分までの間
開催場所		萩警察署 3 階 講堂
出席者	委員	棕木委員、大田委員、山本委員、柳林委員、山中委員、 末若委員、矢田委員、中村委員、瓜生委員 計 9 名
	公安委員	今村公安委員 1 名
	警察	署長、副署長、会計主幹、警務課長、生活安全課長、 地域課長、刑事課長、交通課長、警備課長 計 9 名
議題		1 所管業務説明 2 「大規模自然災害に備えた諸対策の推進について」

1 会長挨拶

2026年も本日が2月13日ということで、日にちが経つのが早いと感じる。本日は、今年度第3回目の協議会であるが今年度は視察のラッシュであった。第1回目は警察本部長が、第2回目は警察本部警務部長が、そして本日第3回目は今村公安委員が出席されている。どうぞよろしくお願いします。

さて新聞を読むと、本日も詐欺被害が掲載されていた。内容は、防府市居住の70代女性が孫を騙る犯人に200万円を騙されということである。振り込め詐欺は被害額が大きく大変深刻な状況だと思う。やはり電話でお金が出たら詐欺を疑えと記載されていたが、まさにその通りである。

本日、第3回の諮問事項は、「大規模自然災害に備えた諸対策の推進について」であるが、萩市内の大規模災害と言えば、平成25年7月28日、萩市須佐で大災害が発生している。この災害は大雨により家や橋が流されている。この災害を教訓に萩市では7月28日を萩市民防災の日に、7月23日からの1週間を萩市民防災週間に指定し防災意識の向上を図っている。

本日は、各地域・学校・各団体の防災に関する取り組みに関する提言や警察・市役所・消防等に対する要望があれば合わせて意見ををお願いします。

2 署長挨拶

(省略)

3 公安委員挨拶

本日は、萩警察署協議会に参加させていただき、本当にわくわくしている。それは、永年の目標が叶った警察署だからである。私は、数年前から大学生を警察署協議会委員に任命していただきたいをお願いしていたが、なかなか実現しなかった。県内には山口市や下関市、周南市に大学があるのもかかわらず、萩警察署協議会が大学生を任命していただいたので、楽しみにして来た。このような会議には老若男女、全ての世代の男女がバランスよく自分の意見を発言することが大事である。

警察署協議会は、平成13年に開始され、今年で24年になり、警察のいろいろな変遷、問題のあるポイントを諮問事項にしてきたが、今回は「大規模自然災害に備えた諸対策の推進について」であり、皆さんが意見を出しやすい諮問事項だと思う。

私は、阪神淡路大震災の記憶がすごく強く、この地震で身近な人の命を救ったのは、被災者の近所の人や地域の人であり、いざとなれば警察・消防が到着する前に自分に何が出来るか、何をするのが命を守るのにつながるのかを考えて行動するのが大事なことだ。

本日は、警察行政にお願いすることもさることながら、何をしたら良いかというアイデアを含めた意見を述べていただきたい。

4 所管業務説明（署長）

(1) 生活安全関係

- うそ電話詐欺、SNS型ロマンス詐欺被害認知状況

(2) 刑事関係

- 刑法犯認知状況

(3) 交通関係

- 交通事故発生状況

5 第2回萩警察署協議会協議事項説明（交通課長）

第2回萩警察署協議会の諮問事項「情勢に応じた合理的な交通規制の実施」及び「良好な自転車交通秩序実現のための取組」について、各委員からの提言に対する取組状況について説明する。

まず、「情勢に応じた合理的な交通規制の実施」に関しては、停止線や横断歩道など重大事故に直結する箇所を把握次第速やかに警察本部に補修要望を上申しているほか、公安委員会の交通規制を伴わない道路標示に関しては、道路管理者が施行していることから、山口県萩土木建築事務所や市町の土木建築課に対して早期補修を働き掛けている。

昨年10月に発生した川島の国道262号における逆走事故の発生を受け、山口県萩土木建築事務所と合同による現場点検を実施し、再発防止策として、交差点形状をより鮮明化するため道路標示を補修することとしている。

このように、安全で快適な交通環境を構築するため、引き続き、道路実態の把握と関係先への要請を実施していく。

次に「良好な自転車交通秩序実現のための取組」については、本年4月から、自転車運転手の交通違反に対し交通反則切符が導入されることから、16歳以上の自転車利用者に対し、交通安全意識の醸成する方策として、

- ルールを守っている児童を誉めて遵法精神を醸成する
- 学生だけでなく、大人の自転車マナー向上を図る
- 警察官が自転車でパトロールして市民に模範を示す

などの意見をいただいたほか、交通事故抑止対策として、

- 堀内地区など見通しの悪い狭路における事故防止対策
- ご高齢の方を対象とした講習会の継続的な実施

など、効果的な意見を多くいただいた。

こうした提言を受けて萩警察署では、定期的に通学路等における自転車の現場指導を実施しており、登下校する中学生や高校生に対し、交差点での一時停止や徐行、左側通行や並走の禁止などの指導を実施するとともに狭路や見通しの悪い交差点において、通過車両に対して速度抑制や徐行について指導・警告を行うなどの街頭活動に取り組んでいる。

また、学校に対する交通安全教室も継続的に実施しており、110番の日にも明倫

小学校において、3年生～6年生児童約400人を対象に防犯指導や自転車の安全利用などについて安全指導を実施しているほか、現在、管内の各小学校において、新入学時児童に対する交通安全教室を開催して、横断歩道の安全な渡り方などを指導している。

令和7年中、萩警察署管内では、自転車による交通事故も多く発生しており、委員からの要望があったとおり、堀内、江向、川島など見通しの悪い狭路や通学路を中心とした街頭活動と強化するとともに、幅広い年代を対象とした交通安全教室や講習会を実施していく。

6 諮問事項説明（警備課長）

「大規模自然災害に備えた諸対策の推進について」をパワーポイントにより説明

7 協議・検討

（委員）

大規模災害について中学時代の体験談をお話する。私が住んでいる地域には、大変水が豊富な河川があり、ありがたい反面ある日突然牙をむいて人を襲い家屋を襲い、いろいろな災害を起こしている。その河川の上流にはダムがあり、昨年建設50周年を迎え、式典が行われた。その式典では、ダムを建設する上で立ち退きを余儀なくされ、故郷を離れられた方を中心に約80名が参加した。

私が住んでいる地域における最大の災害は、その豊富な河川ダム建設中であった昭和47年7月に発生、当時の私は中学校3年生であった。夏休みに入る直前の水害で、その年に中学校のプールが新設され、いよいよ明日プール開きが行われる予定の前日の水害であり、新設のプールは流され、誰も泳いだことのない幻のプールとなった。当時ダムは建設中であり、ダムの仮設事務所も流された。水害後は、自衛隊の援助を受けながら復旧作業を行い、私も夏休み中であったことから床上浸水した家屋の清掃等の作業を手伝った。当然運動会もなくなり寂しい中学3年生であった。

災害を振り返り風化させないため、現在も毎年1回地元の小中学校で過去の災害体験談を語る場が設けられている。子供たちに、実際この地域でも大災害が発生したこと、ダムがあっても絶対に安心ではないことなどをしっかり認識して欲しいと思って話をしている。

「自助・共助・公助」という言葉があるが、今月小学校の防災教室で、避難訓練を行う予定であるが、地域住民にはそのような場がなく、逆に子供たちに避難方法を教えてもらうことの方が多いのではないか。私は、市のスクールリーダーと言う立場で各学校を訪問し、子供たちと一緒に簡易トイレを作成したり非常食を作って食べるなど防犯に関わる勉強をさせてもらっている。

自然災害は、いつ起こるか分からない。雨が降る台風が来るといった情報はあがあるが、地震災害はある日突然やってくる。ここが一番難しいと思っている。災害の中でも地震・雷・火事・親父と昔から言われているように、地震における災害の予測が大

変難しい。年寄りを抱えている萩市ではお年寄りの手を引っ張って非難場所まで非難する訓練を積み重ねておかないと本当に命を守れないのではないかと最終的には「自分の命をまず守ろう。」「次にみんなで助け合おう。」「最後に行政に頼ろう。」ということを取り組んでいかないといけない。

あとは、公助と言うことで我々のできる範囲のことは、まず自分で行動を起こそうと考えているが、警察を含め公の機関に協力いただけるところは協力をいただこうと考えているので、よろしくお願いします。

(委員)

住民の防災意識は、地域によってかなり格差があるのではないかと。それは居住地によって標高差があるのも影響しているのではないかと。私が住んでいる地域は、他所よりも標高が高いことから住民の防災意識が低いように感じる。それで何か対策しないと大変なことになると感じ、数年前に町内会組織に防災委員会を設置し救護班など各班を設けたが、住民の中には自分が何班なのか分かっていない者もいるように感じる。日頃から出来ることをやっておかないと災害が発生した時に何もできないのではないかと。住民には要支援者、要するに災害があった時に自分一人でなかなか逃げられない方もいる。要支援者がどこに居住しているかは把握をしているが、では実際災害が発生した際に、誰が寄り添って避難するのかは明確になっていない。その対応も今後対策を講じていこうと考えている。

それと私が住んでいる地域には看護学校があり、同学校では毎年防災講座を開催している。その防災講座には、5～6名の町内会員が参加しており、このような講座を利用しながら住民の意識を高めている。

私個人としては、災害の中でも地震が一番怖いと思っている。それはいつ発生するか分からないからである。私が住んでいる地域には石垣が多く、地震で石垣が崩れると緊急車両が通行できないと感じている。危険な石垣はたくさんあり、町内会だけで全ての対策を講じることは出来ないことから、行政に情報提供し一緒に対策を練っていかないといけないと感じている。

(委員)

私が住んでいる地域は海拔2mで波が高い時には、家屋2階まで波が到達する。そのような状況のため、毎年11月に地震・火災・津波などいろいろな災害を想定した防災訓練が開催されている。

火災に関しては、消防の指導の下、放水の準備から始まり実際に放水を行い、その後、水や簡易トイレの確保方法、また必要数などを話し合っている。さらにはAEDの使用方法についても教示してもらっている。

なかなか防災訓練の開催が住民に徹底しないことから、町内会長が頻繁に広報を行っており、そのおかげで住民の6割が参加をしている。

駐在所の警察官は、パトロールを良くしてくれており、災害等が発生した際にも地域住民への支援をよろしくお願いします。

(委員)

私が通学している学校では、生徒の時間が合わないのか生徒が参加する避難訓練

はない。私は、地震が怖いという気持ちはあるが、他の生徒と話していると、「地震があつて少し揺れたよね」という安易な感覚を持っている生徒が多い印象がある。学校で避難訓練がないことから地域の避難訓練に参加させて欲しいと思う反面、参加するのがめんどくさいという意見が多いのも現実である。訓練に参加することによって何か物を貰える、何かのイベントに合わせて訓練をするなど何かの機会を利用した訓練であれば参加しようと思える。楽しみながら訓練に参加できたら、つまらないと思って参加するよりいいと思う。訓練が大切なことは分かるが、若者にとって親しみやすい訓練があれば非常にいいと思っている。

(委員)

災害と言って思い浮かぶのが、地震・豪雨、近年多いのが火事である。地震は、1～3月の冬場、豪雨は、6～7月の梅雨時期が統計的に多い傾向にある。この時期は特に災害の意識を高めていきたい。

先程、ダム建設中の水害の話があつたが、私も当時高校3年生で女性1名が亡くなるなど悲しい災害であつた。また平成25年の須佐・田万川の豪雨でも2名が亡くなっている。この時の雨量で言えば、よく犠牲者が2名で済んだなと思っている。今後災害が発生し、これまでの災害以上に犠牲者が出たらいたたまれない。地震や豪雨など災害に関する意識は、みんなが持っていると思う。私が住んでいる地域でも高齢者を集めて年1回防災講座を開催している。その講座で話があつたが、ハザードマップで自分が居住している地域がどういう状況にあるかを各個人が事前に把握しておけばいいと思う。山際は、ほとんど急傾斜に家が建っており大地震が発生すれば土砂崩れが絶対起きる。その時にハザードマップを事前に確認し安全地帯を把握していれば、そこに避難ができる。行政には、どこに安全地帯があるか位置が分かるようにしておいて欲しい。

南海トラフ地震が起きると言われているが、今この瞬間に地震が起きたら皆さんはどのような行動をするか。警察はどのような動きをするのか。南海トラフ地震が発生しても萩に津波が来るまで時間がかかると聞いているが、では私たちが高知などに旅行に行っているときに、地震が発生すればどのような行動をとれば良いか。パニックが起これると思う。中国地方はプレート状、地震が少ない地域ではあるが、昨今、鳥取で地震が発生しており安心はできない。萩で震度5の大きな地震は、ここ何年も発生していないが、地震など災害の発生を考える今日はいい諮問事項であつたように思う。

(委員)

私が住んでいる地域では、毎年10月に地元の消防団、警察、自衛隊等が参加する防災訓練が開催される。私は、地元婦人会の一員として炊き出し訓練を行っている。おにぎり2個を所定の袋に入れ、500人分用意し参加者に配布する。みんな美味しいと喜んでくれる。

また国道191号を萩市内から大井方面に進行すると海岸沿いに高波を防ぐための防波壁がある。しかし防波壁に隙間があり、その隙間から海水が国道上に流れて水たまりができ、それを車両が避けて対向車線にはみ出て通行するので、防波壁の

隙間を塞ぐことはできないか。

(交通課長)

現地を確認し、後日回答する。

(委員)

私が住んでいる地域では、昨年12月に開催された地元の祭りに防災アドバイザーを招いて住民に講和をしていただいた。その時に来られた防災アドバイザーは女性の方で、女性の視点に立ったアドバイスをいただいたが、それぞれの視点で防災を考えることが大切だと感じた。

私は、役場の土木係で勤務していた関係で、災害の基準を把握している。時間雨量は20mm、1日の雨量は80mmで災害の対象になる。須佐の水害時は時間雨量が130mmと基準の6倍以上であった。水害により壊れた道路や護岸を修復し、地滑り等が起こらないようにしたが、災害の基準は当時と今では変わってきている。

線状降水帯が発生すれば、今までの判断基準が役に立たないような大雨が降る。通常の雨なら河川も道路も大丈夫であるが、その基準を超えたら予測不能になるだろうと思う。

地震については、平成7年か8年に阿東町を震源とする地震が発生し、当時私が勤務していた役場の建物もひび割れが起きた。地震の震度があと1大きければ、私が居た地域の被害も全く違っていたと思う。

最近の災害は、今までの考えで防災を考えていたら手遅れになるのではないかとと思う。規模も大きくなり、時間雨量も激しいものになってきている。みなさんも規模が大きくなったことは周知をされているが、「災害があっても私は大丈夫」と思うことが強い。萩市の防災訓練もいろいろな災害規模を設定して行われるが、防災訓練と言うのはなかなか難しいと感じる。

それと防災訓練は、地域住民全員が参加するわけでない。参加しない人に訓練内容を周知するが大事である。防災訓練参加した人も安心することなくこれからも防災について考えていただけたらと思う。私も地域住民に防災の意識付けを行っていききたいと思う。

(委員)

私が住んでいる地域では、防災訓練や防災に関する話し合いが全くない。災害が発生したときにどうすれば良いのかを家族では話し合いをしている。隣近所のことにも気になりながら、防災に関する知識が全く分からない状態で自分に何が出来るのだろうと思う。自分たちと高齢者では歩く速度も違うし、どこに逃げたら良いかも分からない。高いところは、どこが一番近いのか、そこへどのように逃げたらよいのかも不安でもある。地域の方に防災意識の向上を訴えても、高齢者が多いので自分が何をどうすれば良いのだろうと悩んでいる。萩市が主催する何かイベントでもあれば参加して地域の方に説明をしてみたい。

須佐の災害については、小学生以下の子供は知らない生徒が多いのではないかと。他の地域で災害が発生したニュースを見て災害が怖いというのは分かるが、では実際に私たちが住んでいる萩で過去に発生した災害の話をすれば、防災にもっと興味

を持つと思う。実際の恐怖とか肌で感じなければ分からないこともある。子供たちの中には「萩で災害なんてあるわけない」と思っている生徒もいる。過去の体験を話せる場所があれば、子供なりに意識を高めるのではないかな。何かあったときに若い人たちが高齢者を引っ張っていかないといけない時代になっていると私は思っている。

(委員)

本年1月6日、萩市で震度3の地震が発生した。この時は、萩警察署長も参加した萩市の交換会が開催されていた。地震が発生したときに交換会参加者の中で「地震だ」と言う人が1人もいなかった。その会議には消防署員や萩市の防災危機管理官も参加していた。これはまずいと思う。誰かが「地震です。避難行動をとって下さい」と発するべきである。警察の管理システムは、地震に関することを含め災害を発信することがあるか。あれば情報を早く市民に発信して欲しい。市が言うまで待つのではなく、いち早くその情報を発信して欲しい。

(署長)

おっしゃるとおりである。あの会議のとき私も携帯の地震速報で「萩市震度3」を把握した。我々警察が自主的に参集をする基準が震度5強である。そういう基準が警察にある。現代社会はスマホの時代で、地震があればみんながスマホを確認し情報を得ている。気象庁が中心となって提供している緊急地震速報は、震度5弱の地震の発生が予想されれば、スマホをマナーモードにしていようがアラームが鳴り地震発生を伝えるシステムもある。あの地震の際は、発生後すぐ副署長に連絡し「被害なし」という報告を受けていた。避難行動をすぐにとるべきであったが、すでに震度3と速報されたので、あえて行動を起こさなかった。

(委員)

防犯の関係で「警察官立寄所」という札があり、萩市内の金融機関やコンビニエンスストア等に掲示されているが、一般家庭でも掲示することが可能か。

(署長)

一般家庭には掲示できない。金融機関やコンビニエンスストアなど被害対象になり得るところが購入し掲示している。

(委員)

母子家庭世帯から、自宅に入ろうとしたら知らない人がおり挨拶だけして去っていったという相談を受け、「警察官立寄所」という札でもあれば良いと言われたので質問をした。

8 公安委員講評

長時間の意見交換に感謝申し上げます。

これまで警察署協議会に参加させていただいた経験から、委員の方が地域情勢をきちんと把握されて提言されていると感じた。警察でも地域情勢を把握しているが、このように細かい面まで把握することはできないだろうから、非常に参考になった。

災害に関する提言を受けたが、防災に関し地域差があると改めて感じるとともに

地域差を埋めることも難しいとも感じた。

委員の提言にもあったが災害のキーワードは「自助・共助・公助」でまとめることができる。

公助は、警察を含め公の助けである。これは今まで以上にきめ細かく可能な限り地域の実情に沿った対策を推進するために、このような協議会があるのだと思う。警察等にもいろいろな装備が支給されており、以前より精度が上がってきているが公助には限界があるため、災害対策には自助が大事となってくる。災害対策を自分の事として考えられるかどうかによって自助は随分変わってくる。まずは自分の事として考えることが大事なポイントがある。

一番難しいのが地域差と同じように共助である。共助をどうやっていくのかが一つの大きな課題で、高齢化率の高い地域でもありいろいろな問題がある中で、地域の顔である協議会員の皆さんには、これからも活躍していただきたいと思う。

この協議会には大学生の協議会員がおられ、若者視点からの発言もあり若者が協議会員で本当に良かったと思う。委員の発言の中に「めんどくさい」という発言があったが、災害対策は、まさにその通りだと思う。なぜなら自然災害は、あまり具体的ではないし自分の身にどんなことが起こるかを考えるのが大変だからである。そんな中で、「災害訓練に参加すると何かもらえれば」と発言があったが、簡単に言えば、「エンジン吊るしてくれたら参加するかも」ということである。これが若者の素直な発言である。他の委員の発言の中に「炊き出しでおにぎりを作って参加者で食べた」というのがあったが、まさにエンジンだと感じた。このような方法で参加者を増やし、地域住民が顔見知りになるというのが共助の最低限の条件だと思うし、情報共有の場になると思う。「自助・共助・公助」の全てが結びつくところは情報共有しかない。その辺りをポイントにして頑張っていただきたい。

会員の方は、自分事としてまた会員の一員として発言していただき感謝申し上げます。ぜひ警察に温かい目と厳しい目の二つの目で協力いただけたらと思う。今後ともよろしくお願い申し上げます。

9 次回の開催予定

令和8年度第1回萩警察署協議会は、概ね令和8年6月下旬の開催予定とした。